

平成29年度

京都府立綾部高等学校由良川キャンパス(東分校)

定時制課程

学校経営計画

(スクールマネジメントプラン)

実施段階

平成29年度 京都府立綾部高等学校(東分校定時制) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学力の向上と進路希望の実現 基本的生活習慣の確立 基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 地域社会から信頼される学校づくりの推進 健康及び体力の維持向上	(成果) 原級留置や中途退学の防止については一定の成果が見られた。 卒業生の全員が最終的に希望する進路を達成することができた。 体育的行事や運動部活動には生徒の多くが意欲的に参加し顕著な成績をおさめることができた。 総じて落ち着いた雰囲気の中、生徒の多くが平穩に学校生活を送ることができた。 (課題) 生徒の興味関心を喚起するべく授業内容、授業形態、評価方法等を工夫すること。 生徒一人ひとりに対して、継続的できめの細かいキャリア教育を実施すること。 健全な生活習慣を獲得させるために、あらゆる機会をとらえて指導を行うこと。 喫煙や薬物乱用の防止について、多様な観点から早期の指導を充実させること。 形骸化した行事を見直し、その内容や実施方法について改善すること。 生徒一人一人に丁寧に関わり添って、個に応じた適切な支援を続け、自己肯定感や社会性を身につけさせること。	基礎学力の充実と「確かな学び」を実現する学習環境づくり 系統的組織的な進路指導体制の確立 豊かな人権感覚や国際感覚、シティズンシップの育成 健康安全教育の推進と部活動の充実 地域社会の活性化に貢献できる教育活動

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価			成果と課題
1 組織運営	生徒の実態に応じた教育を、効果的に実践できる体制を構築する。	教職員間の連携を密にして様々な情報と問題意識を共有し、共通理解のもとで課題の解決にあたる。	B	B	B	・職員間の連携を密にはかり、生徒一人ひとりについての情報を共有して指導にあたることができた。 ・POCDサイクルにおけるCheck段階を実効性のあるものにするのが課題である。
		効果的・効率的に教育活動を行うためのPOCDサイクルを確立する。	C			
		情報の電子化と共有を適切に進め、校務の効率化を図る。	B			
2 教務部	授業改善に努め学力の向上を図る	校務システムを効果的に運用する。	B	B	B	・校務システムを運用し、毎日の連絡会で、生徒の状況を把握した。 ・定期考査前、長期休業中に補習を実施した。
		教科担当と学級担任との連携を密に取り、教務関連業務を充実させる。	B			
		補習などを効果的に行い、生徒個々の学力を向上させる。	B			
3 生徒指導部	安心安全な学校づくりを行う。 個々の発達段階に応じた指導を行う。	問題事象に俊敏に対応し、丁寧な指導を行う。	B	B	B	・前年度に比べ問題事象が減少した。日ごろから生徒の様子を細かく観察し、教員間で情報を共有していることが、問題事象の芽を摘むことにつながったと思われる。
		問題事象の芽を摘む予防活動を推進する。	B			
		各関係機関と連携して交通安全教室、非行防止学習などを適切に実施する。	B			
4 進路指導部	希望進路実現に向けての各種取り組みを実施する。	4年生の個々の進路希望に合わせた個別支援を実施する。	B	B	B	・進路実現に向け必要な支援は行ったが、4年生全員の進路を確定させるには至らなかった。 ・インターンシップへの参加を呼びかけたが、参加者はいなかった。
		職種や資格などの情報を提供し、インターンシップ等に参加を促すことで、自分に合った職業を選択できるようにする。	C			
		ハローワーク等の外部機関と密に連携する。	B			
5 保健部	保健教育を充実させる。	健康診断を円滑に実施し、要再検の生徒がしっかり病院を受診するよう担任と連携し、事後指導を充実させる。	C	B	B	・健康診断は円滑に実施することができたものの、欠席が多く受検率が悪かった。紙面での受診勧告と個人への声かけを行ったが、受診率の向上はみられなかった。 ・アンガーマネジメントの講演会の実施により、生徒が自分自身の怒りの感情に向き合い、振り返ることができた。 ・ほけんだよりは毎月ではないが定期的に発行できた。
		ストレス社会といわれる現代において、生徒自身がストレスマネジメントができるよう、講演会等を実施する。	B			
		「ほけんだより」などを通じて、健康に対する啓発や基本的生活習慣の確立に向けた指導を行う。	B			
6 人権教育部	人権教育を推進することで生徒に人権意識を根付かせる。	講演等の人権学習を通して人権意識を養う。	B	B	B	・2学期に行った講演会では、生徒が熱心に耳を傾ける姿が見られ、生徒の人権意識の向上につながった。 ・奨学金の情報の周知徹底に改善の余地がある。
		教職員に向けた研修を行う。	B			
		奨学金等の情報を積極的に発信する。	C			

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価			成果と課題
7 第1 学年部	一人一人の生徒の様子を把握し、きめ細やかな指導を行うことで高校生活および卒業後に必要な学習、生活習慣をつけさせる。	学校生活になじめるように、周囲との関係作り等の支援を行う。	B	B	B	・学校環境になじむことが出来、生徒同士のコミュニケーションも増えてきた。 ・学習態度も良好だが、作文や授業中での発表など、自分の考えを表現することへの苦手意識が課題である。
		生徒との対話の機会を多く持ち、学校内外の様子を把握する。	B			
		学習の様子や提出物の状況、授業の様子を積極的に確認、指導し、必要な学習習慣をつけさせる。	B			
8 第2 学年部	生徒一人ひとりの学習状況や生活状況を把握し、きめ細かい指導を行う。	キャリアカウンセリングを通じて、進路への意識を持たせるとともに就労に必要な能力を伸ばす。	B	B	B	・欠課時数が切迫したり成績が振るわない生徒もいたが、補習等の必要な支援により全員進級できる見通しがたった。 ・アルバイト就労への支援を行ったが、なかなか長続きしない生徒もいた。
		課題のある生徒に対して保護者と密に連携し、補習やアルバイト就労のための支援など必要な支援を行う。	B			
		日々の連絡会を通じて教職員間で生徒の状況の共通認識を持つ。	B			
9 第3 学年部	生徒一人ひとりとの信頼関係を築き、きめ細かい指導を行う。 生徒一人ひとりの将来の進路を考えた指導を行う。	教員自らが積極的に生徒とのコミュニケーションをとる。	B	B	B	・教員から積極的に声かけ等のコミュニケーションを取ることができた。それにより生徒の現状の把握がスムーズに行えた。 ・その上で生徒の将来をより具体的に考えていく必要がある。
		生徒の日々の状況や現状を把握するよう心がける	B			
		学校生活や授業等に加え、教員のこれまでの経験や体験等を生徒に伝えていくことを心がける	B			
10 第4 学年部	卒業と進路実現に向け生徒の学力を充実させる。 健全な生活習慣を確立させる。 学校と地域社会との豊かな交流により人間性を育成する。	生徒の進路希望を系統的組織的な関わりや懇談の中から引き出し、個に応じた適切な支援を行う。	B	B	B	・仕事との両立を図りながら、卒業を見据えた学習活動を継続させてきた。 ・卒業後の進路については、クラス全体としては積極的でない実態もあったが、夏と冬の懇談や教科での補充等を通じて、進路実現に対する意欲が徐々に強まっていた。 ・友人との交流や周囲との関わりを大切にし、表情豊かな生活を送ることができた。
		スマホゲームサイトが変わる興味関心を学校生活や授業の中で喚起し、時間の使い方コミュニケーション能力を養いながら、健全な生活習慣を獲得させる。	B			
		クラス委員等の生徒会勤務における成功体験や資格取得の中で、自身の良さを見つめ、周囲との関わり方や社会性を身につけさせる。	B			
11 国語科	「読み 書き 聞く 話す」といった言語活動を充実させ、コミュニケーションスキルの向上と社会生活に必要な思考力・判断力を身につける。	漢字学習の時間を確保し、意味や部首といった基礎学力の向上を図る。	B	B	B	・生徒の興味や関心を引き出すアンケートを実施したり、授業で使用するワークシートを個人やグループで行えるものにしたことで、小テストや単元の振り返りがスムーズにできるようになった。 ・授業の展開や各学年における言語活動の充実を図り、基礎学力の定着と自分の思いを表現する活動をさらに充実させたい。
		生徒の発言や興味関心を通じて、自己表現する力を身につける。	B			
		国語を身近に感じさせ、教材や時事問題に触れながら、今昔の問題(課題)について考える。	B			
12 地歴 公民科	地歴・公民の基本的な事項を理解するとともに、社会に出た時に必要な知識や能力を身につける。	授業の目標やねらいを明確にする。	B	B	B	・特に現代社会において、生徒が意見や考えをまとめるための題材が多くあったにもかかわらず、それを十分に活用できなかった。
		ニュースや新聞記事など身近な事例を取り上げる機会を多くつくる。	B			
		地歴・公民に関する事象について、自分なりの意見や考えをまとめて表現する機会を多くつくる。	C			
13 数学科	数学における基本的な概念や原理法則を理解させ処理能力を向上させる。	要点を絞り、生徒がわかったと実感できるような授業を行う。	B	B	B	・生徒が少人数であることを生かしたきめ細やかな支援で生徒の学力を底上げすることができた。 ・学習したことを日々の生活に生かせるようさらに有効な指導をしていきたい。
		演習の時間を十分に確保し、補習やチームティーチングを実施することで基礎学力の定着を図る。	B			
		日常生活に密着した教材を用意し、生徒の数学への意欲関心を高めるとともに数学の有用性を伝える。	B			
14 理科	身近な事柄から理科に対する興味を持たせ、また計算能力などの基礎学力を向上させる。	演示実験を含む実験や視聴覚教材などを活用し、視覚的体験的な授業を行う。	C	B	B	・実験や体験学習は十分な回数を確保できなかった。 ・日常的な事柄に結び付けるよう心掛けたため、生徒の興味につながったと感じる場面は少なからずあった。
		自然や日常的な事柄と学習内容を積極的に関連させて伝える。	B			
		理科において必要な計算について、簡単なものから繰り返し指導し、計算能力を定着させる。	B			

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価			成果と課題
15 保健体育科	体育の授業を通してスポーツの楽しみや喜びを知らしめる。 生涯スポーツの観点から積極的に運動することを意識させる。	生徒が興味を持ち、積極的に参加することができるような授業を実施する	B	B	B	・様々な種目や競技を行うことや、内容を工夫することにより授業に興味を持たせることができた。 ・授業前後の集合や挨拶に時間がかかることや、準備や片付けを迅速に行わせることが課題である。
		集合挨拶や後片付けなど規律のある行動ができるように指導する	C			
16 英語科	日常生活の中に英語があふれていることに気づかせて、身近に使われていることを実感させ、自分で学ぶことができる力を育成する。	授業中に単語テストを行い、生徒理解を深める。	B	B	B	・生徒はノートやプリントを活用し、学習することができた。 ・長期休業中、基礎補充を行い学力の向上を図った。
		毎時間しっかりとノートを取らせ、内容を整理することで、理解を深めさせる。	B			
17 商業科	高校で初めて学ぶ商業科目の面白さと社会生活における有用性を実感させる。	ビジネス計算や簿記等社会で役立つ知識を基礎からの積み重ねで理解させる。	B	B	B	・すべての科目において、反復練習の大切さを重視した結果、一定の成果をあげることができたが、ノート提出を習慣づけることはできなかった。
		プリントを活用し、反復練習により理解を深める。	B			
		ノート提出や課題作成等、授業中の取り組みを重視して評価することにより、授業を大切にさせる。	C			
7 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる。	授業規律を大切にする。	B	B	B	・生徒の学習意欲を引き出すことを心がけて指導したが、十分な成果を出すには至っていない。
		授業時間を有効に活用し、完成度を高めるための姿勢を身につけさせる。	B			
		技能差のある生徒が取り組める課題を取り入れ、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。	B			
19 家庭科	自立する力を育成する。	生徒の興味関心を引き出す教材を工夫する。	B	B	B	・身近な問題を取り上げることで、生徒の意識を高めることができた。 ・実習など体験的な学習には積極的に取り組ませることができた。
		体験的な学習課題を多く設定する。	B			
20 情報科	情報社会で生きていく上で必要な知識技能を身につける。	授業における実習を重視し、タイピング等の基礎的能力と基本的な文書が作成できる能力を育成する。	B	B	B	・情報モラル・セキュリティ教育を体系的に行うことができた。 ・生徒が安全かつ有効にICTを活用できるよう繰り返し指導していきたい。
		情報モラルセキュリティ教育を重視し、生徒が安全に便利な情報機器を活用できるようにする。	A			

学校関係者 評価委員会 による評価	生徒の進級・卒業率が著しく向上したことは大いに評価に値する。高校卒業資格を有するか否かは、生徒が今後、転職等する際にも大きな違いとなる。保護者への指導も含めて、引き続き、粘り強い指導を期待したい。
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	<p>(成果)</p> <p>本年度は休学・転退学等の進路変更が皆無で生徒全員が無事、進級・卒業を果たすことができ、原級留置や中途退学の防止については大きな成果が見られた。体育的行事や運動部活動には生徒の多くが意欲的に参加している。特に部活動(卓球部)においては、全国大会で団体の部ベスト8に進出する等、顕著な成績をおさめることができた。総じて落ち着いた雰囲気の中、生徒の多くが平穩に学校生活を送ることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>生徒の学習意欲は依然高いとはいいがたい。生徒の興味関心をさらに喚起するべく授業内容・授業形態・評価方法等を工夫する必要がある。将来に対して前向きな展望を持ち自分自身の進路希望を明確化することが困難な生徒が多い。生徒一人ひとりに対して、継続的できめの細かいキャリア教育を実施する必要がある。喫煙や飲酒、薬物乱用の防止について、生徒指導・教科指導・保健指導等、多様な観点から早期の指導を充実させる必要がある。集団生活において時として社会的な未熟さが顕在化する生徒が依然として少なくない。今後とも自己肯定感や社会性を身につけさせる必要があり、そうした観点から特別活動等の積極的な運用を検討する必要がある。</p>
-----------------------	---